

天声人語

1989年のベルリンの壁の崩壊は、一種のハプニングだった。東ドイツ高官の不用意な発言をきっかけに、西ベルリンへ自由に行けるようになつたと報じられ、人々が壁へと押し寄せた。兵士が検問所を守り切れなくなり、開放した▼群衆は東側からも西側からも集まっていた。東ドイツ兵の一人が後に語っている。「私は、両側でたがいに叫びあう人びとから圧力を感じていたが、歴史からも圧を感じていた」（ヒルト・ン著『ベルリンの壁の物語』）。それでも射殺の危険すらあつた越境が、軽々となされた▼さて、こちらの越境は歴史の歯車をどこまで回したのだろう。民衆ではなく独裁者がひとり、軍事境界線をまたいだ。ハブニングでなく周到な演出として▼核とミサイルで日米韓を脅してきた従来の態度と、カメラの前で「歴史的な責任感と使命感」を語る姿。どちらが本当の金正恩朝鮮労働党委員長かと戸惑う。南北首脳会談では朝鮮戦争の終戦を目指すことが決まった。一方で非核化は具体的な道筋が見えない▼独裁体制のまま各国と付き合い、国民を外の風にあてない。それが北朝鮮の狙いだろう。しかし平和を確実にするには、多くの人が国を越えて行き来することが欠かせない。両首脳による宣言には、南北に離散した家族の対面が盛り込まれた。拉致問題にも光が差すことを願う▼韓国では若い世代ほど、南北統一を求めなくなつたと聞く。長い分断がもたらした見えない壁がある。越えるための努力がいる。

2018・4・29